

米国財務会計基準審議会（FASB） との第 25 回定期協議の概要

ASBJ 専門研究員 あらい けんじ
荒井 謙二

1. はじめに

2019年2月7日及び8日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第25回定期協議を東京で開催した。ASBJからは小野委員長、小賀坂副委員長、川西常勤委員のほかスタッフが参加した（役職名は開催当時）。FASBからは、Russell G. Golden 議長及びChristine A. Botosan 理事が参加した。

2. 全体のスケジュール

| 日時 | 議題 |
|-----------|-----------------------|
| 初日 | 近況報告 |
| | 企業結合（のれん） |
| | 公正価値測定 |
| | 収益認識 |
| | イニシャル・コイン・オファリング（ICO） |
| | 継続企業の前提 |
| | 業績報告及び開示 |
| 2日目 午前 | リース |
| | 負債と資本の区分 |

3. 議事概要

(1) 近況報告

FASB 及び ASBJ の代表者の双方より近況報告がなされ、意見交換が行われた。

FASB の代表者からは、次の項目を中心に報告と議論がなされた。

- 新基準の導入支援
- 長期保険契約に関する基準開発
- 今後の米国基準の開発アジェンダ
- 米国市場における IFRS 適用状況
- その他のプロジェクト

ASBJ の代表者からは、次の項目を中心に報告と議論がなされた。

- 現在の日本基準の開発アジェンダ
- 修正国際基準（JMIS）の開発
- リサーチ活動
- 関心のある国際的な論点

(2) 企業結合（のれん）

FASB において進行中の識別可能な無形資産及びのれんの事後の会計処理に関するプロジェクトに関連して、次の論点に関する ASBJ スタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 企業結合の会計単位
- 企業結合で取得した個々の識別可能な資産及

び負債の当初測定

- 識別可能な資産及び負債の当初測定の結果として認識したのれん

(3) 公正価値測定

ASBJの代表者より、ASBJが2019年1月18日に公表した企業会計基準公開草案第63号「時価の算定に関する会計基準（案）」等に関連して、米国会計基準に基づく公正価値測定について、ASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(4) 収益認識

ASBJの代表者より、ASBJが2018年3月に公表した企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」に関連して、ASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(5) イニシャル・コイン・オフリング（ICO）

ASBJの代表者より、金融庁に設置された仮想通貨交換業等に関する研究会が2018年12月に公表した報告書において、仮想通貨を用いた取引の規制等の検討が行われていることに関連して、いわゆるイニシャル・コイン・オフリング（ICO）のトークンを発行する企業の会計上の取扱いについて、ASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(6) 継続企業の前提

ASBJの代表者より、2018年11月の第34回基準諮問会議において、新規テーマとして日本公認会計士協会より「財務諸表を継続企業の前提に基づき作成することが適切であるかどうか

かの判断規準の作成」が寄せられたことに関連して、米国会計基準会計基準更新書第2014-15号「財務諸表の表示—継続企業（サブトピック205-40）」に関するASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(7) 業績報告及び開示

FASBのテクニカル・アジェンダ項目にも含まれている業績報告及び開示に関して、複数の論点が議論された。

- 営業活動を識別するアプローチ
- 会計方針の開示における重要性
- 分解表示に関する定量的な閾値
- 概念フレームワークで想定される利用者及び利用者による情報の消費

(8) リース

ASBJの代表者より、日本におけるIFRS第16号「リース」のエンドースメント手続、及び日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、リースに関する会計基準の開発に着手するか否かの検討に関する議論が紹介された。

(9) 負債と資本の区分

ASBJの代表者より、IASBが2018年6月に公表したディスカッション・ペーパー「資本の特徴を有する金融商品」に関連して、ASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

4. 次回の予定

今回の定期協議は、2019年8月にノーウォークで開催することが予定されている。